

安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No. 303 訂正 2023年3月3日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

ヘイトスピーチをなくすため 条例制定を

3月1日 予算特別委員会 市民文化局 さとう綾市議

SNS上でアイヌ女性や性的マイノリティへの差別、ヘイトスピーチが続いており、その解消に向けた対策をするようにとさとう綾市議が質問に立ちました。

まず同市議はヘイトスピーチに関して「現在どういった施策を進めているのか」と現時点での取り組みを質問。市の担当者は「啓発ポスターの掲出、ヘイトスピーチについて漫画で解説した啓発冊子の配布などを行っている」と取り組みを広げていることから、重ねて「これらをSNS上で発信するなど、ぜひ工夫して進めていただきたい」と求めました。

LGBTQ、性的マイノリティの問題についても、質疑のなかで様々な悩みが札幌市に寄せられていることがわかり、同市議は「相談窓口での対応で支援をするとともに、差別や偏見をなくすためには法的な整備も必要だ」と感じている。本市としてヘイトスピーチや差別意識をなくすための条例を制定することで、断固として差別やヘイトスピーチを許さないという発信にもなり、市民にも歓迎されると思いますが、どうお考えか」と提案。市の担当者は「今後とも、法令やそれに基づく計画等の考え方を踏まえまして、様々な取り組みの中でヘイトスピーチの解消をはじめ、人権の尊重や擁護に努めてまいりたいと考えております」と制定にかかわる直接の明言を避けました。

市議は最後に「啓発を続けること、法律と条例の両輪が必要。さらなる検討を」と市に求めました。

無低の薬代助成額 札幌市独自に試算せよ

3月1日 予算特別委員会 保健福祉局 長屋いずみ市議

無料低額診療制度の薬代助成を求めて、長屋市議が質問に立ちました。

最初に長屋市議は「経済的な理由で医療にかかれない人がいる状況はあってはならないと思いますが、本市の認識を」と単刀直入に質問。市の担当者は「医療機関への受診はそれぞれの方が必要と考えるときに受診できることが大変望ましい」と答えました。次に同市議は「仮に本市において薬代を助成すると試算した場合、どの程度の費用が見込まれるのか」と質問。市の担当者は「旭川市の令和3年度決算額が約300万円というふうに聞いている。人口比を考慮いたしますと、札幌市で実施した場合は年間で数千万円となる可能性がある」と多額の予算を必要としないことや独自の統計を取っていないことがわかり、「薬代が払えない、こういう理由で減らしてしまう、あるいは諦めることも多い。しかし、本市が助成すれば、安心して治療、安心して服薬できる。本市が薬代も含めて助成すべきだ。無料低額診療事業を行っている医療機関から院外処方箋を受けている保険調剤薬局でも無料低額診療事業を適用すべきだと思っておりますが、いかがか」と質問。市の担当者は「調剤のあり方は、国が進めてまいりました医薬分業に起因するもので、国の責任において対応すべきもの。保険調剤薬局での自己負担につきまして、制度の対象として位置づけられるよう要望している」と国の財政措置を待つ後ろ向きの答弁でした。

長屋市議は最後に「本市での独自試算をして正確な状況を把握すべきだ」と求めました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。